

多々良川のアユ

津屋井堰の魚道をアユが多数遡上！

多々良川ではかねてよりアユが少数ながら生息していることが確認されている。近いところでは平成18年6月8日向河原橋下（大川小学校下流）で1尾、平成19年7月21日津屋井堰魚道でいずれも15cmほどのものが採集され、古くから津屋井堰の直下で投網に5~6月にしばしばかかっていた。多々良川には津屋井堰をはじめ多数の堰が存在し、その多くは魚道がなく構造上もアユや多くの生き物の移動を妨げている。津屋井堰にはコンクリート製の階段式魚道が右岸側に一基設置されていたが最上段の飲み口レベルが浅く、水がほとんど流れないため機能していなかった。平成18年からその右側により機能的な魚道が新規に建造されることとなった。その条件として堰ゲイトからの水の落下音を魚道からのせせらぎ音として地域に親しまれ、しかも多々良川に生息する多くの種類が十分に遡上したり流下する時にはダメージのない構造とすることである。基本的には階段式は踏襲しながら魚道にさまざまな大きさの自然の石を組み込み、さらに限られた堰の長さの中でより小さい勾配にすることで生き物が移動しやすい自然の川の流れを目標とした蛇行した形状の魚道が設計され、平成19年6月9日に完成した。そして今年の夏から秋に実施した福岡市東区のリバースクールやトンボクラブの採集調査によってこの魚道が機能的であることが証明された。しかし、アユについては不明であったが、今年4月22日の調査によって本種でも効果が認められた。この日は増水し、設置したトラップ以外の部分を水がオーバーフローし、遡上したアユをすべて捕獲したとは言えないがそれでも22尾（全長64~92mm）が捕獲された。また、5月25日の調査では魚道内でのたも網採集とトラップを合計すると54尾のアユ（全長73~105mm）が捕獲された。この結果によると今年多々良川を遡上したアユは単純に計算すると1300尾以上となる。しかし、残念ながら現在の多々良川環境はアユが成育する条件を満足するものでなくごく一部は中流部に残ってもほとんどは津屋井堰付近に留まるかほかの川へ移動すると思われる。今年多々良川に上ってきたアユは現在も生息している室見川で生まれ、博多湾内で成育したものと推察される。なお室見川では漁業権が設定されており室見川漁業協同組合が存在し、今年も3月25日に中流部に24000尾のアユ稚魚が放流されている。

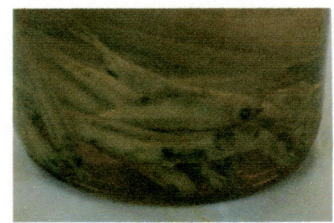
アユが多々良川で成育するためには中上流部までに存在する井堰を遡上できる構造とすることと清らかな水が十分に流れ川底の石に餌となる藻類が付着する環境となるよう尽力する必要がある。



平成18年6月8日採集のアユ



設置されたトラップ



平成20年4月22日採集のアユ